



日本と韓国の伝統服飾文化に関する比較研究

人間文化学部 国際文化学科
教授 鄭 銀志 (チョン・ウンジ)

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1717号室
Tel 082-251-9575 Fax
E-mail

専門分野： 比較文化, 東洋服飾史

キーワード： 東アジア, 服飾文化, 伝統服飾, 宗教服飾, 朝鮮通信使, 異文化理解

● 現在の研究について

日韓の服飾文化のうち、主に17～19世紀における日本と朝鮮の伝統服飾文化について研究を行なっています。

まず、1607年～1811年までは、朝鮮通信使の服飾をはじめ、通信使が見た江戸幕府の装束、日本民衆の服飾文化について、相互認識・文化の受容と変容・外交儀礼・異文化理解という側面から研究を行ないました。それに加えて、1700年代～1800年代における燕行使（朝鮮から中国に派遣された使節団）の服飾、1880年代における朝鮮修信使（明治日本にきた朝鮮使節団）、1883年の報聘使（朝鮮からアメリカに派遣された使節団）の服飾について、外交儀礼という側面から研究を重ねてきました。

次に、近年は「西洋から見る19世紀後半の日本と朝鮮の伝統服飾に関する比較研究」というテーマで、アメリカでの研究やアメリカ・韓国・日本での研究発表、学術論文の刊行などの研究活動を通じて、その成果を出してきました。2018年度は、「19世紀後半の英米新聞における日本の伝統服飾のイメージの変遷」というテーマで研究を行ない、その成果を報告・刊行致しました。

以上の研究を通して、17～19世紀における日本と朝鮮の服飾文化、また、19世紀後半の西洋人が認識した日本と朝鮮の伝統服飾文化の一面を明らかにすることができました。

異文化理解・多文化共存というフレーズが国際社会を支えるキーワードになっている今日、自国

の固有の文化としての伝統服飾を、他者がどのように認識していたかを究明することは、自国の伝統服飾を継承・世界に発信していく上で、重要な意味を持つものになると思われま

● 今後進めていきたい研究について

一つ目として、現代日本と韓国の伝統服飾に取り入れられた東洋的・西洋的な要素に注目し、日韓の伝統服飾が世界化に対応しながら、どのように変化してきたのか、その実態を究明することです。

二つ目の研究は、「日本と韓国のカトリック宗教服飾文化に表象される民族イメージに関する比較研究」です。本研究の目的は、西洋の宗教服飾の世界に現れた日本と韓国の民族イメージという特異な現象を、その背景にある時代的・宗教的・社会文化的側面から究明することです。

本研究を通して、日韓のカトリック宗教服飾に投影された民族イメージの実体が究明でき、さらに、日韓の宗教学・文化学研究分野をはじめ、服飾史の研究領域の中で空白の状態であるカトリック服飾の研究分野に貢献できます。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

自治体と文化・生涯学習機関と連携し、朝鮮通信使の服飾のほか、西洋から見た日本と韓国の伝統服飾文化、韓国文化（朝鮮時代から現代までの服飾文化）、東アジアの衣文化関連の公開講座や講演会を行ないたいです。

● これまでの連携実績

本学で主催する公開講座をはじめ、自治体で主催する歴史講座、社団法人教育文化機関などで講演会を行なってきました。